




クラウドサービスを活用した授業のイメージ

	今後の授業（クラウド活用例）	従来の授業の課題
学期始め	年間の学習計画、単元のねらい、評価規準、評価方法等を記したシラバスを、 <u>クラウド上に公開し、共有カレンダーを用いてスケジュール管理を行う</u> 。教師は各単元の始めの授業などで生徒にシラバスを再度提示し、説明することができる。	印刷した冊子やプリントを配付し、オリエンテーションなどで説明するため、時間がかかる。
家庭学習	提示された学習課題（自動採点できるものを含む）に取り組み、授業の前に <u>クラウドを通して教師に提出する</u> 。教師は授業の前に全ての学習課題をPCで確認できる。 	家庭学習の取組状況を即座に把握して授業を行うことは難しい。
授業前	教師は、次の授業の概要と“ねらい”、参考となる教材（映像、画像、参考資料等を含む）を、 <u>クラウドを通して提示する</u> 。生徒は、いつでもどこでも内容を確認して効果的に予習できる。	授業の初めに説明するが、生徒は一度しか聞くことができない。
授業中	生徒は、事前に前回の授業の“まとめ”を作成し、授業の始めに、 <u>クラウドを通して提出する</u> 。教師は、いくつかの“まとめ”を提示し、全体で前回の振り返りを行う。次に、授業の“ねらい”を、 <u>クラウドを通して生徒のPCに提示し、全体で確認した上で授業を始める</u> 。	授業の初めに学習内容を黒板に板書し、説明するため、時間がかかる。
	生徒は、教師の説明を聞くだけでなく、提示された <u>クラウド上の教材（映像を含む）</u> を、必要に応じて繰り返し視聴することができる。	大型提示装置で提示する場合は、1度しか見ることができない。
	教師は、課題やテーマを <u>クラウドを通して生徒のPCに提示する</u> 。生徒は、グループごとに <u>クラウドの同時編集スペースに自分の意見を記録しながら、議論し、考えをまとめる</u> 。 <u>クラウド上の記録を全体で共有し、グループごとに考えを発表し、共有する</u> 。 	グループで、模造紙や卓上ホワイトボードに各自の意見等を記入し、それを黒板に貼るなどして議論を進めるため、時間がかかる。
	教師は、生徒の質問を受け付け、 <u>クラウドの同時編集スペースを用いて全体で共有する</u> 。また、生徒の理解度のアンケートを実施し、 <u>自動集計により、その場で理解度を確認し、全体へ共有することもできる</u> 。 	授業中に多くの質問を共有することや、リアルタイムに生徒の理解度を把握することは難しい。
授業後	教師は、授業の内容の補足と、授業の内容に応じた学習課題（クラウド上で自動採点できるものを含む）をクラウド上に公開する。	授業中に学習課題を黒板に板書し、説明するため、時間がかかる。
	教師は、学習課題の取組状況や授業中に <u>クラウド上に保存した記録の内容、演習問題の解答等を確認し、それぞれの生徒の評価を行う</u> 。	教師は授業中に取組を記録し、生徒のノート等を集める必要がある。
	生徒は、 <u>クラウド上に保存された記録の内容をポートフォリオとして、学習の振り返りを行う</u> 。	紙のポートフォリオの管理は簡単ではない。

Microsoft365、G-suite for Education、Apple School Manager などのクラウドサービスを活用した授業がスタンダードとなる。

